

多様な担い手育成支援事業・事業概要

令和7年9月

<目次>

1. 基本方針	．．． P 2
2. 事業の全体像	．．． P 5
3. 拠点施設概要	．．． P 6
（参考）事業スケジュール概要	．．． P11

1. 基本方針

< 目的 >

- 東京都は、区市町村・大学・企業・団体等の産官学民と連携し、東京農業のイノベーションを促進するとともに、新しい副業的農業希望者、援農ボランティア希望者等の担い手を育て、多様な主体の農業への参画を促す拠点を整備し、農あるまちづくりを図りながら、東京農業の持続的な発展を実現する。

< 基本的な考え方 >

- 都市農地の保全・活用・創造に向けて、「多様な担い手」を育成するための機会と環境を提供する拠点施設を整備し、そのフィールドを活用し、以下の①②の視点から、都市農業・農地の価値を創造する多様な人材の交流及び活動を展開し、東京農業の持続的な発展を目指す。

①東京農業のイノベーション

- 都市農業を発展させる課題に取り組み、従来の発想を超えた多角的な事業（新しい技術を取り入れた農業経営・生産、農業関連ビジネス等）や環境負荷の軽減や気候変動対策等に配慮した農業を展開し、利益・付加価値を最大化する。

②都市住民による農的活動・農ある暮らしの推進

- 都市農地の保全・活用・創造による「緑農住」まちづくりを推進し、地域の課題解決や農ある暮らし（農的な活動・体験、土地利用、交流の場・居場所づくり等）の実現に取り組む。

< 推進体制 >

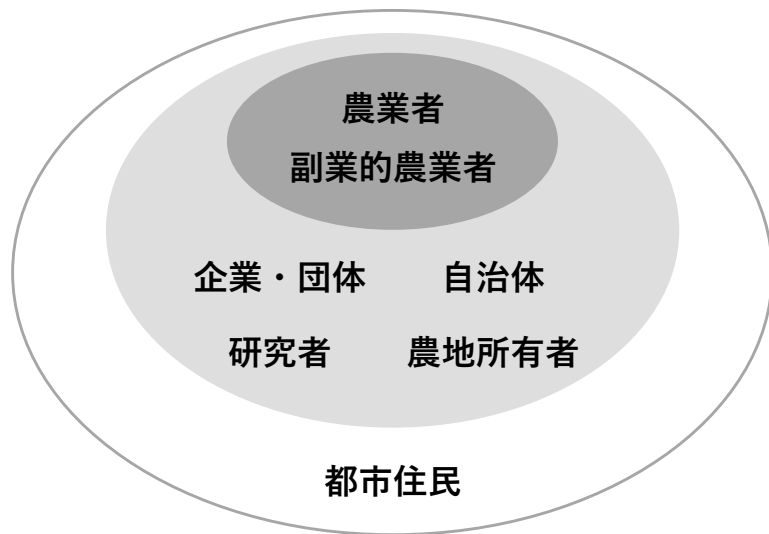
- 東京農業との新たなつながりを生み出すプラットフォームを構築し、様々な関係機関と連携を図りながら事業を推進する。

1. 基本方針

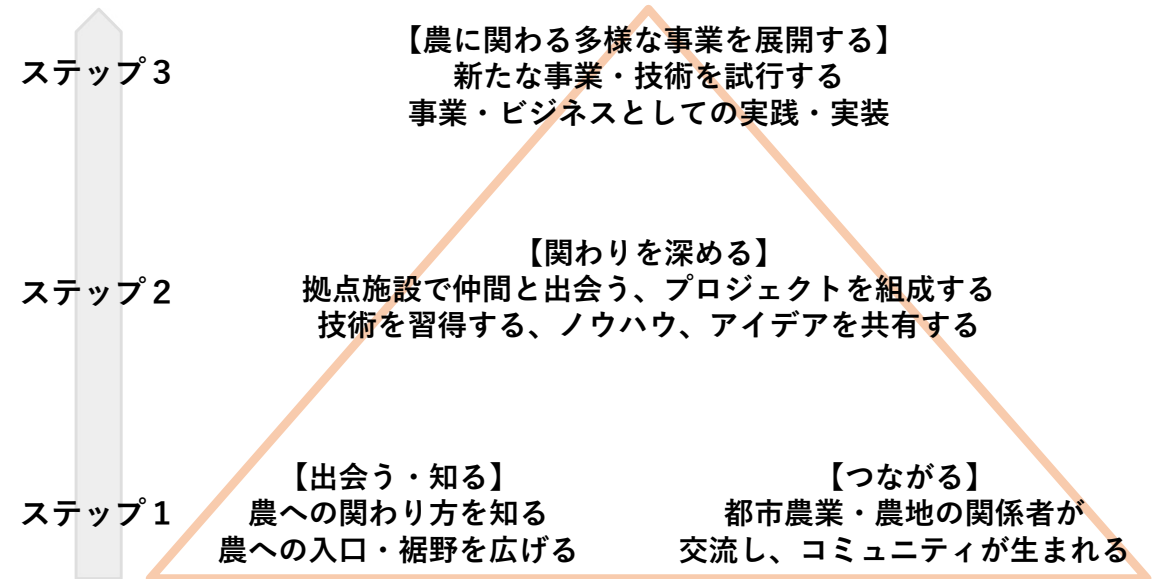
<ターゲット＝多様な担い手（拠点施設において育成・支援する人材）の考え方>

- 本事業では、農に関わる事業・活動の実現に関心と意志を持つ人材を「多様な担い手」と捉え、①東京農業のイノベーション及び②都市住民による農的活動・農ある暮らしの推進に取り組む農業者及び副業的農業者にアプローチする。
- 農業や農地活用を通じたビジネスや社会課題に対する取組を志向する農業者・副業的農業者に加えて、都市農業・農地を活用する企業・団体や自治体、研究者、農地所有者、都市住民等をターゲットとする。
- 都市住民は、拠点施設で展開される様々な活動（研修、ワークショップ等）への参加を通じて、都市農業・農地への理解と関わりを深める“潜在的な”ターゲット＝多様な担い手として捉える。
- 多様な担い手の都市農業・農地への関わり方のステップとして、【ステップ1】出会う・知る／つながる、【ステップ2】関わりを深める、【ステップ3】農に関わる多様な事業を展開する、の3段階を想定する。

【多様な担い手の広がりイメージ】



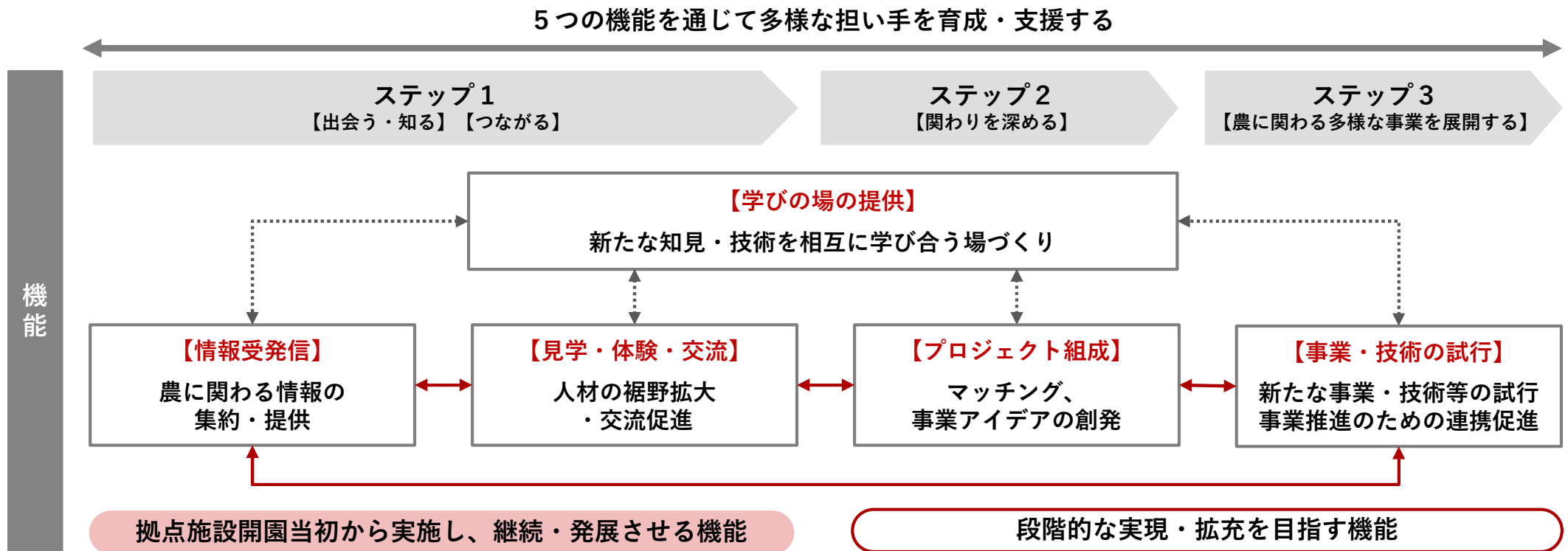
【多様な担い手の都市農業・農地への関わり方のステップ】



1. 基本方針

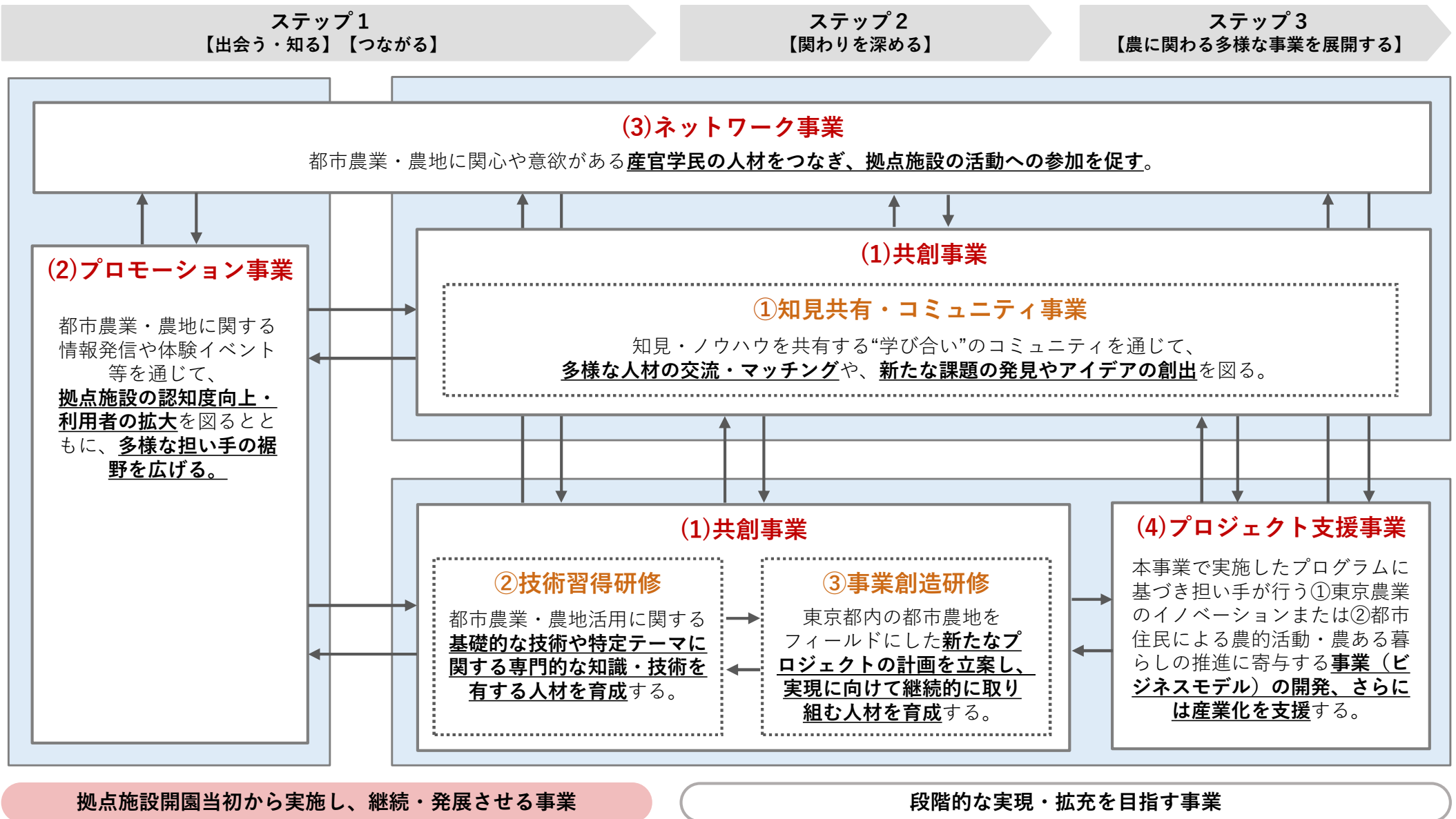
< 拠点施設が有する機能の考え方 >

- 拠点施設の機能としては、人材育成のための「学びの場の提供」を中心に、多様な担い手の育成・支援のステップに応じて、「情報受発信」「見学・体験・交流」「プロジェクト組成」「事業・技術の試行」の5つの機能を想定し、各機能を実現するための事業に取り組む。
- 拠点施設開園初期から様々な実践を重ね、拠点施設の機能も成長させていくことを基本姿勢とする。
 - 例：拠点施設開園初期は【ステップ1】または【ステップ2】の機能を中心にスタートさせ、多様な人材・資源が集積するなかで、段階的に【ステップ3】を実現する体制を構築していく。
- 各機能を拠点施設だけで実現するのではなく、周辺地域や関係者との連携を前提に、機能を充実させていく。



2. 事業の全体像

- 3つのステップに応じて、「共創事業」を中心とした4つの事業を連動・循環させることで、東京農業への多様な関わり方を見つけ、実現するためのフィールドを提供し、都市農業・農地の価値創造に挑戦する多様な人材を育成する。



3. 拠点施設概要

■概要

1. 所在地

- 東京都西東京市緑町一丁目2591番5 ※「案内図、位置図1、位置図2」を参照

2. 総面積

- 約4,300㎡（うち、ほ場面積約2,000㎡）

3. 事業用地の現況

- ほぼ平坦な草地となっており、用地南側を中心に立木が残置している。
- 今後、東京都が実施する土地造成工事後、下記5のとおり拠点施設を整備する。

4. 事業用地の隣接状況

- 東側：幅約3.5mの市道に接している。市道の東側は住宅地となっている。今後、整備工事を行い、幅7.5mまで拡幅する予定である。
- 南側：東京大学大学院農学生命科学研究科附属生態調和農学機構の南キャンパスに接している。
- 西側：同上
- 北側：東京みらい農業協同組合西東京支店に接している。

5. 拠点施設の設備（予定）

- (1) 多目的施設：セミナールーム、コミュニティスペース、直売所等を備えた建物
 - (2) 倉庫：農業機械、道具等を格納する倉庫
 - (3) 研修ほ場：農業を実践的に学ぶことができる農場
 - (4) 付帯設備：駐車場、駐輪場、エントランス広場等
- ※整備する施設、機械等の詳細については今後の検討事項であり、変更されることがあります。

6. スケジュール（予定）

令和7年度～令和9年8月：拠点施設の建築・整備
令和8年3月：ほ場の供用開始
令和9年9月：拠点施設の開設

3. 拠点施設概要

■案内図

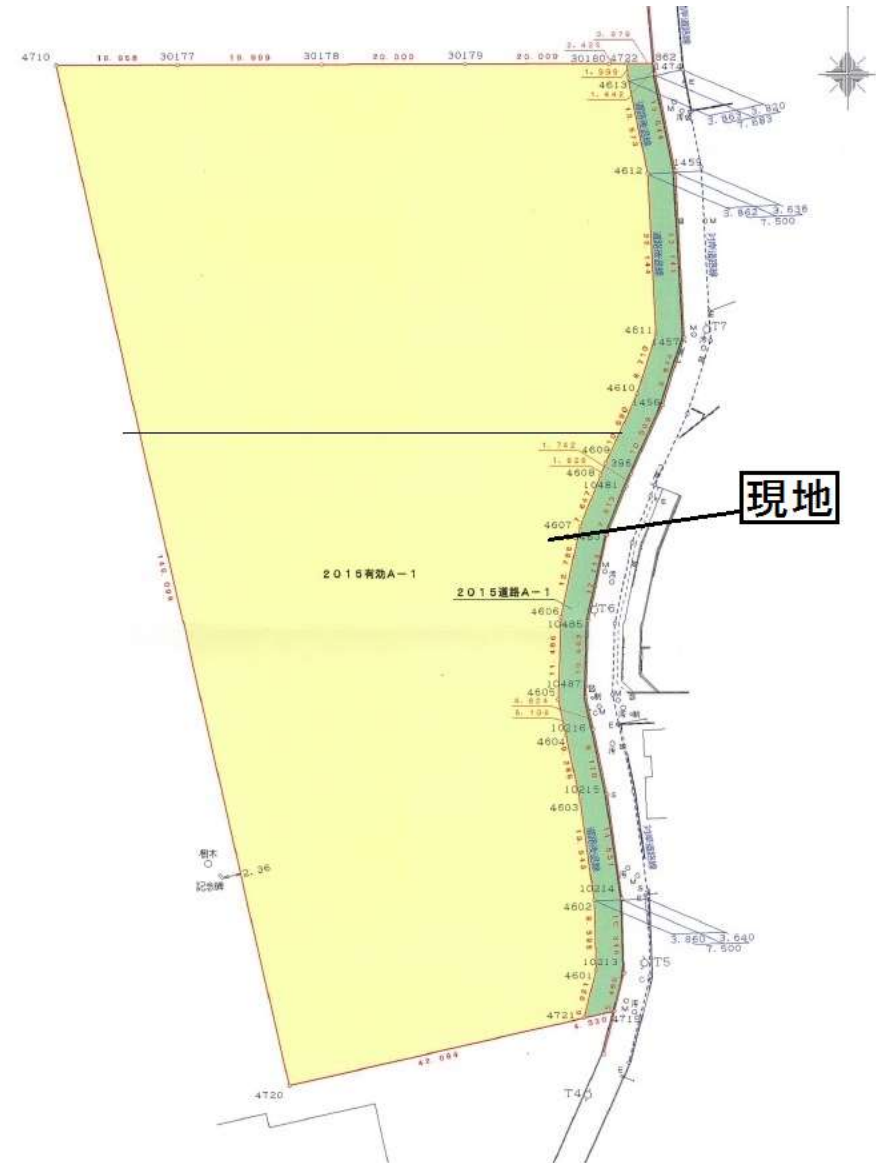


3. 拠点施設概要

■位置図 1



■位置図 2



3. 拠点施設概要

■施設配置方針及び配置案（現時点案）

施設全体の効率的な動線と、「まちに開く」ことを重視し、以下4点に留意しながら、造成及び施設整備を進める。

■ 柔軟性を担保するための緑地配置

- 法令上必要な緑地をフェンス側や拠点施設北側に集約し、拠点施設や農場を柔軟に活用できるようにする。
- また、法令要件以外の緑地は、既存樹木の活用や各種事業と連動した樹木の配置等を柔軟に検討する。

■ 施設の開放性とセキュリティ等のバランス

- 「まちに開く」ことを重視し、出来る限りフェンスで施設を閉じない配置としつつ、監視カメラや人感センサーライトの設置等、夜間や休館日に立ち入りを抑制する方法を導入する。
- 一方で、東大は研究施設であるため、西・南側にはフェンスを設置し、一定のセキュリティを確保する。
- JAとの敷地境界を明確にするため北側のフェンスは必須とする。

■ ハード・ソフト両面での土埃対策

- 道路側にフェンスを設置しないため、近隣への土埃対策等が課題になる。グラウンドカバー等のハード的な対策を検討するとともに、住民との丁寧なコミュニケーションを心がけることで、苦情を回避する視点を重視する。

■ 農機具倉庫を外に「魅せる」工夫

- 農機具倉庫は、道路側に配置し、農機具倉庫が「魅せる」収納となる工夫を凝らす。



3. 拠点施設概要

■施設整備方針（現時点案）

多様な主体の農業への参画を促すシンボル施設とするため、以下の4点に配慮し整備を進める。

■ 5つのエリアで構成

- コミュニティエリア：多様なコミュニティの形成を促すオープンなエリア
- ワークエリア：研修や知見共有のためのセミナーや会議等を実施するエリア
- オフィスエリア：拠点施設の運営を支える職員・スタッフ等のためのエリア
- フードエリア：収穫した農作物について試行的に加工や調理を行うためのエリア
- 農作業エリア：農作業の準備や農作物の調整等を行うためのエリア

■ 様々な活動シーンに応じて変化するフレキシブルな室内空間

- コミュニティエリア、ワークエリア、フードエリアは可動する壁等で区切り、ワークショップやイベント、セミナー等、利用目的に応じて柔軟に可変する“ひとつの空間”として構成する。

■ 主たる構造物を“木”とする環境に配慮した建築物

- 本施設は、「東京農業の持続的な発展を実現する」ことを目的としていることから、二酸化炭素の吸収・固定の効果がある木造もしくは木質構造とする。
- また、ランニングコストの軽減に寄与する技術等を取り入れる。

■ ほ場と一体となったランドスケープを形成

- 敷地の北側に施設、南側にほ場を配置し、隣接地（東京大学大学院農学生命科学研究科付属生態調和農学機構）の空間と親和するデザインとする。
- コミュニティエリアとは場の境界部には、コミュニティエリアと連続したデッキ及び庇をもつ半屋外空間と、農作業の合間の休憩やイベント等の開催が可能なオープンスペースを配置する。
- エントランスのある壁面(東側)は、東側の市道と正対させるなど、本施設の顔としてデザインする。

コミュニティエリア
大小様々な利用に対応できるフレキシブルな大空間とする。

木造木質を活かしデッキテラスを介して屋外空間と一体的に感じられる開放的な空間とする。



ワークエリア

可動間仕切り壁や可動家具によってイベント等に応じてコミュニティエリアと一体利用可能な場所。

コミュニティエリアより静かに事務作業や農業に関する勉強や情報収集ができる。



オフィスエリア

北側アクセスや施設内、農場まで見える透明性の高いオフィス空間。

収納や必要な諸室はしっかりと確保しつつオープンな場所でも可能な事務作業はワークエリアでも可能。



フードエリア

試作としての加工や収穫した作物を使ったイベントに利用できるキッチンスペース。

加工調理教室や収穫祭イベントなどで活用。製法加工が可能な調理器具を揃える。



農作業エリア

収穫した野菜を洗ったり土を落とし梱包したり長靴のまま利用できる農作業エリア。

広場イベントを想定した倉庫や屋外トイレを設け屋外での活動を支える。



(参考)事業スケジュール概要

